

練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第1回）「キャリア教育の推進」部会 要点録

開催日時	平成21年5月21日(木) 午後3時30分～午後4時00分	
会場	開進第二中学校セミナーハウス 2階和室	
出席者	委員	廣嶋憲一郎、小野雅保、岡本昌子、根本裕美、飯塚剛、望月徳生、高橋吉久（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	芝田智昭 指導主事

1 各委員から専門教科等を含め自己紹介

事務局

まずアドバイザーの先生は、廣嶋先生です。第1回目なので、皆さんの自己紹介、担当学年の共有をしたい。また本部会の部長は小野校長先生にお願いしたい。

（事務局から本日欠席の委員の紹介）

（各委員から専門教科等を含め自己紹介）

アドバイザー

キャリア教育には、私はいくつかのキーワードがあると思っている。実際に9年間でどんな活動や学習ができるか検討していけば、そう難しいことはないのではないか。ちょうど今日の資料にあるが、基本は体験だと思っている。子供にどれだけ体験させられるかがキャリア教育の一番大きなポイントだということを頭に入れながら、今年は、資料作成の方向付けまでできればいいですね。

（使用資料）

「体験活動を取り入れたキャリア教育の推進」

「小学校の学習指導要領におけるキャリア教育にかかる記述」

「中学校の学習指導要領におけるキャリア教育にかかる記述」

「キャリア教育の基本的な考え方と推進のための方策」

「自分に気づき、未来を築くキャリア教育、小学校におけるキャリア教育推進のために」

2 各委員の意見交換

部長

なぜ今進路指導ではなく、キャリア教育なのか、背景がどこにあるのかなど、私たち自身がキャリア教育とはどういう中身になるのか、その基本的な考え方、キャリア教育の捉え方を共通に持つことが大事なのではないか。

委員

中学校では職業体験、職場体験などいろいろな呼び方があるが、これによって何を身につけるのか、教科指導との関わり合いをおさえていかないと、単にイベント的なものに終わってしまう気もしている。

あと一つは、これまでの練馬区の取り組みから考えると、小中一貫に関わる四つの重点にキャリア教育が挙がってきていることが理解できない。

一つの事例として、職業体験に行ってくるだけでなく、行ってきたところでテーマを持ってあと半年間追究し、関係者に来ていただき発表会をする。その後もう1回実際に行って体験し、自分がやったことが本当に現実に合っているのかどうかを体験の中から確かめてくるということをやった。

アドバイザー

キャリア教育に関しては練馬固有の課題ではなく、もっと別の色合いがある。今の若者達がニート、フリーター等の職業に関わってどういった勤労感を持っているのかというあたりが、社会に出て行くときに極めて重要。

結局、子供たちが自分のよさを見つけて、生き方を考えることができるようにする、そういう教育です。

子供たちがいきいきとして自分の生き方を考えられるのではないかという事例を集めて、これから私たちが資料を作っていくということかな。

事務局

特別支援学級では中学校も職場体験はしていますか。

委員

中学校、はい。

委員

小学校の事例として。今通常ではなくなっているお別れ遠足を特別支援学級ではまだやっていて、昨年豊洲のキッズニアに行ってきた。そこは自分も勤労体験をしてお金を得よう、楽しんでお金を使って自分を磨こうというブースがある。中には大人は入れないので、ガラス越しに見ていたが、そこの方が懇切丁寧に教えてくれる。

いろいろな可能性を秘めている子供たちに、いろいろとチャレンジをして開拓させられる体験が日常的にできるよう、キャリア教育の中でうまくカリキュラムに盛り込めるといいかなと感じた。

アドバイザー

そういう情報がたくさん出てくるといいですね。

事務局

次回までに、先生方の実践例をA4で1枚程度持ち寄っていただきたい。

委員

職業体験に関しては、区中研の中の進路指導部会がまとめを出している。

委員

小学校は進路指導はないが、生活科の究極的な狙いでもある。

委員

私は道德のほうからやってくるといいですね。

【次回日程】

第2回 6月25日(木) 15:30～

* 練馬区役所本庁舎12階1201会議室